



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二八九号）

冬至 とうじ 十二月二十二日

横光利一の参宮

先日まで三重県立美術館で開催されていた「川端康成と横光利一」展。昭和初期を代表する小説家の横光は、伊賀市柘植^{つげ}で少年時代を過ごしていました。展覧会では、ノーベル文学賞作家の川端との往復書簡が展示され、濃厚な交友関係がうかがえました。

その横光が上野の第三中（現・上野高校）時代の同窓生に宛てた手紙に、自身の神宮参拝について記しています。昭和十二年十二月二十一日、妻と一緒に内宮へ行くと、「東柘植」と背中に書かれた消防団と出会ったのです。

「近頃これ程嬉しく爽々^{さうさ}しい気持ちになったことはありませんでした。敬礼をすませてから誰か知った人はいないかとあかずに眺めておりましたが、誰も皆僕のいた頃は生まれても居ない人ばかりでしたのでその儘^{まま}だまって別れました。家内にも此の^{こゝ}一団は僕の村の人たちだと教えてやると、何だかどこか似ていると行って非常に、偶然にびっくりしておりました」

横光の感激が伝わってきます。そして本籍地は九州にあるが、ほとんど行ったことがなく、

「やはり故郷と云えば柘植より頭に浮かんできません」。

と、柘植への愛着を記しています。

また、柘植の特産、ひのな漬を名物にするべく、宣伝を惜しまないとし、駅で小樽にして売る、辛すぎるので都会向けに塩加減を薄くなど、知恵も出しています。同窓生宛の手紙に親しみが湧きました。

年末年始、御礼参りや初詣など伊勢神宮にお参りする機会も増えます。懐かしい人に会えたらどれほどうれしいことか、これも神さまのおかげと思えばかりです。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 大みそか寄席

風情あるすし久の2階にて行われる大晦日恒例の落語会「大みそか寄席」で思いっきり笑い納めをした後、初詣はいかがでしょうか。

と き／12月31日(月) 一部18:00～ 二部20:30～

ところ／すし久

料 金／前売り1,800円、当日2,200円

出 演／桂文我、桂三象、桂宗助

※演目は当日のお楽しみ

○ おかげ横丁行く年来る年

「行く年」と「来る年」に、想いを馳せながら、懐かしく、ゆったりとした年越しをお楽しみください。

と き／平成30年12月31日(月) 23:30～

平成31年1月1日(火) 0:30

ところ／おかげ横丁内「太鼓櫓」

出演者／桂文我、桂宗助、村田社中(伊勢萬歳)、

内山思考(俳人) 他

五十鈴塾

○ お正月の花

年があらたまるというのは、理屈ではなく心が華やぐものです。今年には特に平成の元号があと数か月で変わる大切な節目のお正月です。一年の罪穢れを大みそかに洗い流し、清らかな気持ちで新年を迎えたいものです。おめでたい花を飾って歳神様をお迎えしましょう。きっと良いことがある年になることでしょう。

(懐紙・花包み・花切り鋏・タオルなどをお持ち下さい)

と き／12月23日(日) 18:30～20:00

講 師／爪橋 静香(茶道・華道・和裁・陶芸教室主宰)

参加料／一般2,200円 会員1,700円(花材費・茶葉代含む)

ところ／五十鈴塾左王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

わびすけ

侘助

ぎょうひ

求肥に白餡とメレンゲを加えた生地で、粒餡を包みました。炉の季節の風情をたたえる、一輪の侘助です。

しんえん まつ

神苑の松

小豆をのせた山芋のきんとんに、白い氷餅を雪に見立て、そそり立つ神苑の松を表現しました。

とし こしまんじょう

年越饅頭

大晦日の縁起物・年越し蕎麦。その習わしにちなみ、搗った山芋に蕎麦粉を加えた生地で、こし餡を包んだ薯蕷饅頭を作りました。